

2025 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金 研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [富田航]

学年・組・番号 [2 年 C 組 1 6 番]

研究課題： 城郭と信仰—宗教的要素を考える—

（英文） Relation between castles and beliefs—Consider the religious element—

研究概要：

（研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください）

日本において多くの城郭が築かれた中世から近世初頭には多くの合戦が行われており、人々は現と比べても死ととても近い人生を送っていたことだろう。そんな時代において神とされるものを信仰する、良いとされていることを実践する避けることは健康でいるための心のよりどころであったに違いない。戦いをする施設で「死」への不安が最も高まるであろう城郭にはそれが顕著に表れるのではないかと私は考えた。研究では城郭において行われている地鎮の方法や大名との関係性、各城郭の共通点や相違点を見つけることで城郭での信仰の形態を明らかにすることを目的とした。一般的に行なわれている地鎮が何を根拠にどういった方法で行われているのかを博物館の展示、書籍や文献史料を用いて整理し、発掘調査の報告書や現地調査から得られた情報をもとに東日本の城郭における地鎮の事例と比較し、城郭の地鎮についての特徴を考える。

研究成果：

（研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください）

地鎮は建物を建てる、整地するなかでその土地にいる神様を鎮め、工事の成功と永遠の安全を祈願して行われるものである。『日本書紀』に登場し、飛鳥時代から行われているという。現代も行われているような地鎮は平安時代に日本に伝来した密教の影響を大きく受けている。その方法は天台宗と真言宗で輪宝と櫛の置き方が異なるが五穀、五宝を納めるという点では共通している。東日本の 43 城の事例をそれぞれ見てみると稲穂や麦、輪宝を描いたカワラケなどが発見されており平安時代に確立された方法に基づいて行われていたと考えられる。その一方でカワラケに記される文字などには陰陽道の影響が見られる、平安時代の記録類と同じように発見される例がないことから武士や農民に広がるなかで変化していったと考察できる。ただ大名と地鎮の方法の関係性は見受けられず今後、事例を全国に広げて検討する必要があると感じた。

研究者：（以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する）

研究代表者 2 年 C 組 富田航

担当教諭 柿沼亮介

（受給額：29000 円）

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
（次のページに続きます）

研究成果写真：

（研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください）



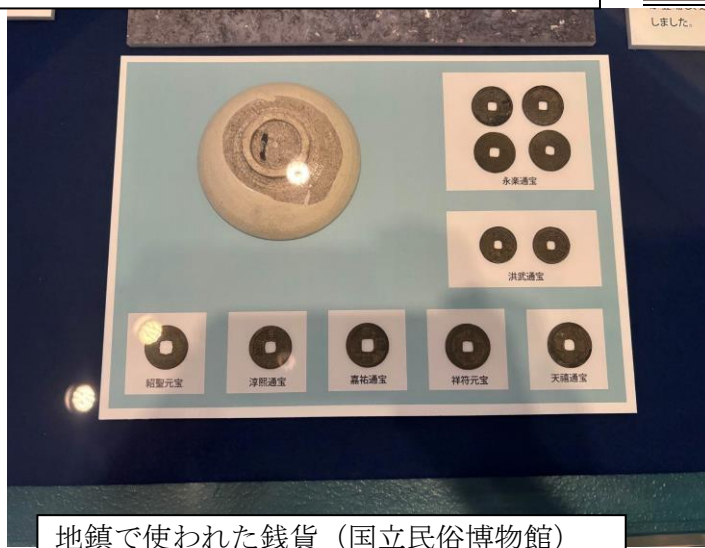
現地調査



地鎮で使われた墨書土器（国立民俗博物館）



地鎮で使われたカワラケ（国立民俗博物館）



地鎮で使われた銭貨（国立民俗博物館）